

科目責任者 岡田 嘉仁(天然薬物学教室)

■ 教育目的

「天然物由来の薬物」である生薬は、その基原が植物、動物、昆虫および鉱物であり、古来より医薬品として利用されて来た。この歴史的背景を踏まえ、医薬品としての生薬ならびに医薬品開発における天然薬物の重要性について解説する。とくに代表的な薬用植物や生薬について含有される薬効成分などを含めて幅広く解説する。あわせて、現代医療に用いられている漢方薬についても概説する。

■ 学習到達目標

1. 自然が生み出す薬物として、薬になる動植物について理解する。
2. 薬の宝庫としての天然物を理解する。
3. 現代医療の中の生薬および漢方薬について理解する。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：シラバスをもとに教科書など関連する箇所を目を通しておく。

復習：教科書、配布プリントなどで、授業内容が理解出来ているか確認する。質問は随時可能。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	生薬とは	生薬の歴史、生薬から医薬品の誕生	C7 (1) -1-1 C7 (1) -1-2 C7 (2) -1-2
2	生薬とマラリア	人類の病気との闘いと生薬	C7 (1) -2-2
3	薬用植物の分類	生薬の基原植物の形態と分類	C7 (1) -2-2
4	薬用植物・生薬の命名法	基原植物、生薬の学名と命名法	C7 (1) -2-2
5	生薬の品質評価	日本薬局方の生薬関連事項 通則、生薬総則、一般試験法など	C7 (1) -6-1 C7 (1) -6-5 C7 (1) -3-1
6	生薬の薬効別分類	生薬の用途による分類	C7 (1) -2-5
7	生薬の化学的分類	生薬の有効成分による分類	C7 (1) -2-5
8	生薬の化学的分類・一次代謝成分	生薬の有効成分と糖類などの一次代謝成分	C7 (1) -2-5 C9 (1) -2-2 C9 (1) -2-3
9	薬用植物と二次代謝成分 (1)	風邪に用いる代表的な漢方処方について 漢方処方(桂枝湯・葛根湯・麻黄湯)を構成する生薬とその基原植物の科名、学名、産地、薬用部位、薬効、成分などについて(1)	C7 (1) -1-1 C7 (1) -2-2 C7 (1) -2-3 C7 (1) -2-5 C7 (3) -1-6
10	薬用植物と二次代謝成分 (2)	漢方処方(桂枝湯・葛根湯・麻黄湯)を構成する生薬とその基原植物の科名、学名、産地、薬用部位、薬効、成分などについて(2)	C7 (1) -1-1 C7 (1) -2-2 C7 (1) -2-3 C7 (1) -2-5 C7 (3) -1-6
11	薬用植物と二次代謝成分 (3)	漢方処方(柴胡剤)を構成する生薬とその基原植物の科名、学名、産地、薬用部位、薬効、成分などについて	C7 (1) -1-1 C7 (1) -2-2 C7 (1) -2-3 C7 (3) -1-5 C7 (3) -1-6
12	薬用植物と二次代謝成分 (4)	漢方処方(参耆剤・大黃剤)を構成する生薬とその基原植物の科名、学名、産地、薬用部位、薬効、成分などについて	C7 (1) -1-1 C7 (1) -2-2 C7 (1) -2-3 C7 (3) -1-5 C7 (3) -1-6
13	薬用植物と二次代謝成分 (5)	アルカロイドを含有する生薬とその基原植物の科名、学名、産地、薬用部位、薬効、成分などについて	C7 (1) -1-1 C7 (1) -2-2 C7 (1) -2-3 C7 (1) -2-5

No.	項目	授業内容	SBO コード
14	漢方薬の歴史	生薬と民間薬および漢方薬の特徴、漢方医学の歴史	C7 (3) -1-1 C7 (3) -1-2 C7 (3) -2-1
15	漢方薬の基礎	漢方の基礎理論および処方選択のプロセスについて	C7 (3) -1-1 C7 (3) -1-4

■ 授業分担者

No.1、3～8、14:岡田 嘉仁、No.2:小林 照幸（非常勤講師）、No.9～13、15:馬場 正樹

■ 成績評価方法

期末試験の成績（90％）、授業への参加態度（10％）で総合評価する。

■ 教科書

『パートナー 生薬学 改訂第2版』竹谷孝一・鳥居塚和生 編（南江堂）

■ 参考書

『薬学生・薬剤師のための知っておきたい生薬 100 ー含漢方処方ー』日本薬学会 編（東京化学同人）